

独立行政法人国立病院機構

沖縄病院

患者様の立場を尊重し高度で良質の医療を提供します

平成29年11月 No.92号

独立行政法人国立病院機構

沖縄病院

地域医療連携室

〒901-2214

沖縄県宜野湾市我如古3-20-14

TEL (098) 898-2121 (代)

FAX (098) 898-6433

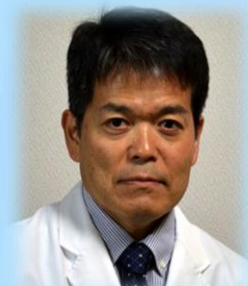
(連携室直通)

沖縄病院ホームページ

www.okinawa-hosp.jp/



☆地域連携室ニュース☆



「心の糧をみつけたら」

～沖縄病院外科紹介～

外科部長 河崎 英範



いつのまにか私の仕事になった週末の雑草とりが良かったのか、台風の直撃がなかったのが良かったのか、今年は10月半ば過ぎても我が家のゴーヤー収穫はまだ続いております。原稿依頼をいただきましたが家庭菜園の話ではなさそうで、当院外科の業務内容を紹介します。

現在外科スタッフは5人で、うち呼吸器外科指導医1名、呼吸器外科専門医3名で、これまでの伝統もあり呼吸器疾患に特化したといわれる外科グループです。手術症例は年間約200例、そのうち肺癌は80～90例で、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、気胸などが続きます。最近では検診発見の肺癌が増え、それに伴い早期症例が増えていますが、そのような症例では胸腔鏡を併用した非侵襲的な手術、肺温存を心掛けた区域切除など縮小手術を行っております。一方で他施設では切除困難と判断されるような症例でも気道・肺血管切除再建を伴う手術や、今後増加が見込まれている悪性胸膜中皮腫に対する手術など呼吸器領域では難易度の高い手術も行っております。肺癌に対する外科的治療は、癌の三大治療（最近では免疫治療も含め四大治療）のなかでは最も根治性の高い治療方法ですが、根治性と引き換えに呼吸機能の低下を伴います。また比較的高齢者が多く並存疾患もあり、麻酔科、病棟スタッフを含めた術前カンファレンスでは根治性を確保しつつ、いかに侵襲を少なくし術後の活動を保てるか、症例ごとに慎重に検討しております。また肺癌などの進行症例では手術のみでの根治が困難なため、化学療法や放射線治療との組み合わせが必要となり、常に最新の薬物治療、放射線治療の知識をアップデートし最善の治療選択に努め、呼吸器内科・放射線治療医を含めた合同カンファレンス、県内外からの講師を交えた講演会、研究会、webセミナーに積極的に参加しております。

当グループで取り扱う特筆すべき治療として気道インターベンション治療があります。肺癌や縦隔腫瘍による気道狭窄はクリティカルな状態ですが、内視鏡的あるいは外科的治療で劇的に症状が改善することがあります。非常にストレスフルな治療ですが、酸素マスク下で喘鳴、呼吸苦しさを訴えていた患者さんが、治療翌日ベッドサイドに腰かけ食事をとる姿は、仕事の励みになります。これからも日々の収穫を心の糧に、良い医療を提供してまいります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

外来 6 分間歩行試験

外来師長 山本 泉美

平成 29 年 6 月より外来にて 6 分間歩行試験を開始いたしました。

6 分間歩行試験とは、中等度から重症の呼吸器疾患・心疾患患者への医療介入の効果を測定することが目的で在宅酸素療法を導入するための治療方針を決めるためにも行っています。測定方法は、ある一定の距離を 6 分間歩行し続け、その前後の息切れ疲労感、心拍数と SPO₂ の変化、その歩行距離で評価をしていきます。外来診察中に医師に相談していただければ外来で気軽に行えます。

在宅酸素療法を検討している方や、今の酸素量が適しているかなどお困りの方は、当院の呼吸器内科医師にご相談ください。外来看護師と共に 6 分間歩行試験を行い、安全・快適に療養ができるようにしましょう。



病棟呼吸筋ストレッチ体操

看護師長 平嶋 勝徳

平成 28 年度より北 3 病棟（消化器呼吸器内科混合病棟）では、日常生活動作において、自立または軽度の支援を必要とする患者様を対象に、呼吸機能の維持を目的に呼吸筋ストレッチ体操を行っています。

呼吸筋ストレッチ体操は、軽度の運動で息苦しさはなく、座ったままでも体を動かして、呼吸機能の維持ができます。体操の中では、息苦しさが強くなった時の呼吸の整え方などを紹介しています。スタッフがモデルとなり、呼吸筋ストレッチ体操の動画を作成し、その動画を見ながら午後の日課として病棟の患者さんと一緒にストレッチ体操を行っています。体操を行っている患者様からは「体操を行って良かった」「気分転換ができた」などの声が聞かれています。会場設営を手伝ってくださる患者様、自ら他の患者様を誘い、呼吸筋ストレッチ体操をすすめる方もいらっしゃいます。息苦しさを伴わない体操を継続的に行うことで「深呼吸が上手になった」「息が長く続くようになった」と体操の効果を実感されている患者様方もいらっしゃいます。

北 3 病棟にお越しの際は、午後より病棟食堂に体操を行っていますので、一緒に参加してみませんか？



第37回 西病棟夏祭り

児童指導員 坂本 武行



今年も天候に恵まれ、第37回目の西病棟夏祭りを開催することができました。

一銭町や、飲み物屋、かき氷、いなりチキン・アメリカンドッグなどの出店がありました。患者様、ご家族、地域住民の方々、お店の方、当院職員との楽しく会話をする姿や、夏祭りならではの買い物を楽しんでいる様子が見られました。

イベントとして、院内保育園の子どもたちによるエイサーを始めに、沖縄病院職員で構成している「かりゆし太鼓クラブ」による演舞、「おばあラッパーズ」、沖縄でも有名なアマチュアバンド「SSカンパニー」、県内外で活動している「園田青年会のエイサー」も出演があり、大変盛り上げていただきました。その中では、夏祭り実行委員長の挨拶も祭りの盛り上げに拍車がかかり、子どもエイサーの可愛らしい姿に観客のシャッターを押す姿が途切れず、おばあラッパーズでは家族の方も一緒に踊って楽しんでいました。SSカンパニーの演奏は、懐かしのベンチャーズからGSサウンドの曲を歌っていただき、懐かしく聞かれた方も多かったのではないのでしょうか。イベント最後には、園田青年会によるエイサーの三線の音、太鼓の音が会場に響きわたり、会場からも思わずカチャーシを踊りだすなど盛大なフィナーレとなりました。終了後はエイサーメンバーが患者様のために西病棟を回っていただき、会場へ行けなかった患者様から「元気になりました！」との声が聞かれました。

今年も西病棟の患者様やご家族をはじめ、他病棟から参加した患者様の喜ばれていた様子が見受けられ、総勢300名を超える参加があり、大変もりあがりました。患者様、ご家族、ボランティアの方、職員、たくさんの方の協力で第37回夏祭りが無事終了しました。

最後に、暑い中荷物の運び出しから会場設営、片づけまで協力していただいた夏祭り実行委員の皆さんの協力で無事終了することが出来ましたことを感謝いたします。

来年も沖縄病院の患者様、ご家族の皆様の笑顔がみられますように！



沖縄県 緩和ケア研修会

7月に当院主催の緩和ケア研修会を行いました。院内外から職種を超えたたくさんのご参加ありがとうございました。

日々業務を行う中での悩や疑問点など、お互いにアドバイスや意見交換をとおして、緩和医療に関する意識の高さを感じられる研修となりました。

この研修が緩和医療に携わっていく方々の今後の自信につながり後輩育成や緩和医療に携わるリーダー育成につながるものと信じております。

予定外の仕事になり参加できなかった方々、今回の研修を逃してしまった方、来年の参加をおまちしております。興味を持たれた方は、当院地域連携室の緩和担当までご連絡ください!(^)!



縁の下の力持ちスタッフを紹介します

当院には難病支援看護師の新里さん、臨床心理士の吉村さんが常勤しております。

難病を抱えながらの在宅医療や病名告知の心理的サポート等2人のサポートはチーム医療の要となっています。

神経難病、呼吸器慢性疾患、癌治療から緩和医療まで、職種は違いますが患者様への思いは一つ！

患者様のQOL向上のため2人の切磋琢磨は続いていきます。

お気軽にご相談ください。



当院南側にある建築中の新病棟！

新里さん、吉村さんがもちあげている新病棟完成予想図へ着々と近づいております。

新病棟の詳しい情報については、当院広報誌「はいさい」にも掲載いたしますのでご覧下さい。